

きいて・めもして・こたえよう

こうちょうせんせい しぎょうしき はなし
校長 先生の 始業式の話

なまえ
名前

きこくめあて こうちょうせんせい ちゅうしん ねが
聞くめあて 校長 先生の「中心となる願い」と、その「具体例」を分けてメ
モしましょう。

ことば ちゅうしん ねが ぐたい れい
おとさない言葉： 中心の願い・具体例

ほうそう
放送が終わったら、
ひら
開いて問題に答えましょう。



やまおり

(1) 校長先生が、この一年でみなさんになってほしいと願っているのは、どんな人ですか。

(2) 「自分から動く」ことの例として、校長先生が話したものはどれですか。○をつけましょう。

ア 気づいた自分が、さつとごみを拾う
イ だれかが拾うのを待つ
ウ 言われてから、あいさつを返す

(3) 「自分から動く力」が大切なのは、なぜだと言っていましたか。

(4) 次のうち、校長先生の「考え（願い）」ではなく「具体例」として挙げたものはどれですか。○をつけましょう。

ア あいさつは自分から先に声をかける
イ 自分から動く力が人生を切り開く
ウ その力をこの一年で育ててほしい

(5) あなたは「自分から動く」ために、どんなことをしてみたいですか。理由もつけて書きましょう。

すすめ方

- ① 中央の点線で山折りにして、「めも」の面だけを表にする（問題を先に見せない）。
- ② この放送文を先生が読む（または用意した音声流す）。読む回数：1回。聞きながらメモを取らせる。
- ③ 放送が終わったらプリントを開き、メモを見ながら問題に答えさせる。

放送文

六年生の、みなさん、進級、おめでとう。今日から、いよいよ、小学校生活の、最後の、一年が、始まります。校長先生は、この一年で、みなさんに、「自分から、動く人」に、なってほしいと、願っています。

「自分から、動く」とは、どういうことでしょう。たとえば、ろうかに、ごみが、落ちていたとき。だれかが、拾うのを、待つのではなく、気づいた、自分が、さっと、拾う。あいさつも、言われてから、返すのではなく、自分から、先に、声を、かける。そういう、小さな、一步の、ことです。

なぜ、それが、大切なのでしょう。中学校、そして、その先の、社会では、だれも、いちいち、「これを、しなさい」とは、言ってくれません。自分で、考え、自分で、決めて、動く力が、その人の、人生を、切り開きます。その力を、この一年で、育ててほしいのです。

とはいえ、一人で、がんばりすぎる、必要は、ありません。こまったときは、友だちや、先生に、相談すれば、よいのです。「自分から、動く」ことの、中には、「自分から、助けを、もとめる」ことも、ふくまれています。

一年後、みなさんが、胸を、はって、この、校門を、出ていく、すがたを、楽しみに、しています。さあ、最高学年としての、一年を、自分の、手で、すばらしい、ものに、していきましょう。

メモのれい

校長先生の始業式の話（中心の願い＝自分から動く人に）

願い：小学校最後の一年で「自分から動く人」になってほしい

具体例：ごみに気づいた自分が拾う／あいさつを自分から先に／助けも自分からもとめる

理由：社会では自分で考え決めて動く力が人生を切り開く（一人でがんばりすぎなくてよい）

こたえと かいせつ

(1) 自分から動く人

『自分から、動く人』に、なってほしい」と願っていました。

(2) ア（気づいた自分が、さっとごみを拾う）

イ・ウは「自分から動く」の反対の例として出されたものです。

(3) 中学校や社会では、だれも「これをしなさい」と言ってくれず、自分で考え決めて動く力が人生を切り開くから

第三段落で理由を述べています。自分で動く力が人生を切り開く、と言っていました。

(4) ア（あいさつは自分から先に声をかける）

アは「自分から動く」の具体例（事実）。イ・ウは校長先生の考え（願い）です。

(5) (例) 朝、教室のまどを自分から開けたい。みんなが気持ちよく一日を始められると思うから。

「してみたいこと」と「理由」の両方が書けていれば正解です。